

令和元年度 豊橋市自殺対策ネットワーク会議 議事録

日 時	令和元年7月18日(木) 16:00~17:30
場 所	豊橋市保健所 研修室B
出席者	豊橋市自殺対策ネットワーク会議委員17名
事務局	健康増進課
事務局	豊橋市自殺対策計画の推進体制について説明
A委員	命の大切さを伝える教育を目指している。カウンセリング等の支援や保護者と連携してサポートを行うが課題はたくさんある。
B委員	先日厚労省が自殺10年間まとめたものでは15歳~30歳代の死因の1位は自殺。若年者の自殺はあまり減っていないので深刻な問題。学校現場の声はとても大切。
C委員	心理学を希望する大学生に対し、授業の中でうつ病について、病気の理解や具体的な対応を取り上げ、啓発する取組をしている。身近な人などのケースがあり、うつ病を通し自分のこころを理解することが生きることと重なっていると思う。
D委員	生活自体に行き詰まり、誰からも相手にされず振り向いてほしい人もいる。話を聞いて方向性を支援している。薬物依存の相談もあるが、もうすこし予防的などころから介入しないといけない。
B委員	例外なく今の子どもたちはパソコン、ゲームをいじる。ゲーム依存は以前依存の範疇に含められなかったが最近は含められるようになった。
E委員	学校現場では、こころのエネルギーがないと感じる。子どもと共有する時間がないと教員は気づけない。教員が気づき、そこから相談活動につなげていくことが大事。こころのエネルギーをためていく活動が大切で、これがしたいと思える授業を行うことが一番の対策になると最近感じる。
F委員	学生の中には、客観的には能力は高いが自己認識はそれほど高くなく、自分の将来に希望が持てないこともある。また、携帯を持ちそこに入りこむと依存的で人とコミュニケーションがとれなくなる。心理士や看護師などで学生の話をしている。
G委員	高齢者世帯では、介護相談や認知症の相談がほとんどだが、地域をまわると皆病気があり生活困難さがある。豊橋は高齢女性の自殺が多いとあるが、男性の孤立の多さを感じる。地域に出て民生委員との連携を大切に、民生委員が心配と思う家庭を訪問し相談につないでいる。地域で助け合える環境や互助、自治会の取組等をすすめている。孤立にならないよう相談し合う地域づくりを行うことが課題と思っている。
H委員	高齢者の見守り活動をしているが、活動の中で家庭を訪ねると電気が消えたり、物音がなくなる家がある。そのような家は心配。居場所作りをしているが、来てもらえない人にどう来てもらえるとよいか悩む。

I 委員	<p>高齢者と壮年期は支援の差はなく、悩みがどこにあるのか入院中に解決できるのであれば治療と並行で解決できるようサポートしている。薬物とアルコール依存症は対応しているが、ギャンブルとゲーム依存症は対応していない。なるべく外国の人を断らないよう片言の日本語でも受け入れ悩みの相談は心がけている。</p>
J 委員	<p>仕事を探す人に対する求人は多いが、非正規雇用が多い。正社員でも満足できるものではなく、就職は求人数が多ければしやすいものでもない。就職困難な方は、関係機関と連携した方が円滑にサポートできる。日頃から連携をしていきたいと思っている。</p>
K 委員	<p>救急で自損行為という種別で取り扱う件数は、30 年中の出動が 145 件。29 年中と比較し、出動は 12 件増え、死亡者数は搬送・不搬送併せて 7 名増えている。</p>
L 委員	<p>現在、地域包括支援センターや民生委員の方々が地道に地域に出て、対応してくれている。とじこもっている方は一定数あり、人とのつながりを提案してもなかなかのってくれない。そうした方への対応の難しさを感じる。</p>
M 委員	<p>50 名以上の企業は安全委員会等が心の健康づくり計画を立てるよう法的に義務付けられる。50 名そこそこの企業は産業医の関わりが 1 年に 1 回の健康診断程度というところもある。産業医の専門性を高め、産業医に職域の労働安全衛生を理解してもらった上ですすめないといけないと思う。また、ストレスチェックは 50 名未満は努力義務で手薄なため課題と思う。</p>
F 委員	<p>今話があったようなストレスチェック等で以前より風とおしは良くなっている。制度が浸透してくればより労働環境が良くなるのかもしれない。</p>
事務局	<p>ネットワークの会議で得られた意見を整理して次の行政の施策に生かせる部分がどこにあるのか、ネットワークの地域の活動を考えるうえでの一つの材料となると思っている。意見を取り入れて自殺対策をすすめていく。</p>